

私の留学体験記

広島県立広高等学校 2年 山本 史織 (やまもと しおり)

留学期間 令和2年1月21日～3月28日 (68日間)

留学先 Avonside Girls' High School (Christchurch, New Zealand)

私は1月の半ばから3月末まで、ニュージーランドのクライストチャーチにあるエイボンサイド・ガールズ・ハイスクールへ短期留学をしました。クライストチャーチ空港に着いてガーディアンの方々からのお話やレンタルのスマートフォンを使用する上での注意を聞いた後、空港まで迎えに来てくれたホストマザーと合流しました。家に着くまでの車内では「しおりっていい名前ね」などとマザーが話をしてくれ、少し緊張が解けました。家に到着すると私が使用する部屋やシャワールーム、トイレなどの設備の説明をしてくれました。その後ホストマザーの古くからの友人だというブルースさんがやってきて3人で一緒に夕飯を食べました。その際にマザーがたくさん質問をしてくれましたがほとんど理解できず、理解できたとしても思っていることがうまく英語に変換できなくて、初日から自分の英会話力の低さを実感させられました。あのときの自身に対する不甲斐なさは今でも忘れることができません。

現地校では私は数学、地理、理科、ESOL(英語を母国語としない生徒のための英語の授業)、家庭科、Pasifika(太平洋の島々について学ぶ授業)を選択しました。家庭科の調理実習ではパディの子とスコーンやチキンケバブを作りました。Pasifikaの授業は基本的には教室の中での活動でしたが、一度だけサモア出身だという先生の旦那さんが来校してサモアの伝統的なダンスを教えてくださいました。きっと日本では触れることのできなかつた島国の文化を学ぶことができ新鮮でした。

学校のない休みの日には、バスを利用して友達とショッピングをしにモールに行ったりカフェでゆっくりしたり、ホストマザーが家の近くにあるビーチに連れて行ってくれたりしました。またマザーの娘さん家族が近くに住んでいたため時々そこを訪れ、幼いお孫さんたちと遊んだり一緒に近くにある林にウォーキングをしに行ったりもしました。

私がこの約2カ月で最も多く発した言葉は「Thank you(ありがとう)」です。英語の表現や文化の多様性を学んだのはもちろんのこと、それと同時にたくさんの人の優しさに支えられたおかげで「当たり前は当たり前ではない」ということに気づくことができました。これからの生活でもこの短期留学で学んだ感謝の心を忘れずにかけてあげない一日一日を大切に過ごしていきたいです。そして今まで以上に英語の学習に力を入れ、またニュージーランドに戻り、出会った人々に感謝の想いを伝えられる日がくればいいなと思います。